

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	長尾建樹教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Takeki Nagao
作成者（著者）	周郷,延雄
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(1). p.4 4.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2020_033
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD28967498

長尾建樹教授送別の辞

周郷 延雄

東邦大学医学部医学科脳神経外科学講座（大森）

長尾建樹先生は1980年3月に本学医学部をご卒業され、その後41年間の長きにわたり、第一線の脳神経外科医として手術を中心とした臨床と機能脳神経外科の研究でご活躍されました。2021年3月の教授ご退任に際し、同門のひとりとして本学でのお勤めに対して感謝の気持ちを込めて御礼申し上げます。長尾建樹先生は、ご卒業後1980年5月に東京女子医科大学脳神経外科学講座医療練士研修医となり、その後、東京都立府中病院、茨城県下館市民病院、茨城県牛久愛和総合病院、埼玉県済生会栗橋病院において、クモ膜下出血をはじめとする脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍など多くの手術を手掛けられました。1990年4月から1995年3月までの5年間に渡り、カナダモントリオール神経病院脳神経外科研究員、神経生理部門博士研究員として、専門分野である機能脳神経外科を学ばれ、1995年4月帰国以後も東京女子医科大学脳神経外科で引き続き、機能脳神経外科を中心に研鑽されました。また、堪能な英語力を発揮され、Neurosurgery English Forumにおいて13th Sammy's Awardを受賞されております。1998年1月に東邦大学医学部脳神経外科学第1講座講師として移籍された後は、機能脳神経外科のみでなく、豊富な臨床経験に培われた高い手術技術により、昼夜を問わず、若手医局員へ脳血管障害や脳腫瘍の手術指導を行い、大森病院脳神経外科の手術レベルの向上に尽力されました。2004年3月から同講座准教授（病院）に、2012年1月からは東邦大学医学部医学科脳神経外科学講座（佐倉）教授（病院）にご就任されております。2015年7月から東邦大学医療センター佐倉病院長にお就きになり、厚い人望と高い指導力によって病院の各部門および各診療科の連携強化を図り、Stroke Care Unitを含む救急診療の充実、病院経営の改善に努められま

した。院長になられた後も大森病院でのご活躍同様に、夜間の緊急手術に率先して参加され、いわゆる昔気質の頼もしい脳神経外科医であったとお聞きしております。学会では、日本脳神経外科学会評議員を始め、数々の学会役職を担われました。専門とする機能脳神経外科手術では、多数のパーキンソン病や不随意運動に対する脳深部刺激療法を行い、佐倉病院は千葉県内でも有数の施設となっております。基礎研究として、側頭葉てんかん発現における内領海馬神経回路の役割についての研究、扁桃核内嗅領海馬神経回路の側頭葉てんかんに対する抑制作用の研究において文科省科学研究費を取得されました。臨床研究では、漢方医学における脳神経外科診療への応用に着目され、慢性硬膜下血腫や脳脊髄液減少症での漢方治療を行い、その研究内容は、第20回日本脳神経外科漢方医学会会長賞として表彰されております。

長尾建樹先生は、脳神経外科医としての職人的手術の巧みさのみでなく、温厚篤実な人格が多くの後輩や病院職員からの高い人気と尊敬につながったことは周知の事実かと思ひます。長尾建樹先生の義理、人情、誠意の根源はご両親、特にお母上からの賜物であると他誌にご執筆された巻頭言に詳しく掲載されております（初めての女医。No Shinkei Geka, 46: 365-366, 2018）。

長尾建樹先生には脳神経外科業務以外にも多々ご指導を賜り、大変貴重な時間をいただいたものと後輩を代表いたしまして心より感謝申し上げます。長尾建樹先生が今後ともますますご活躍なされることを祈念し、これからも東邦大学医療センター佐倉病院および東邦大学脳神経外科を見守ってくださいますよう、よろしく願いいたします。